

貿易統計 24年2月－貿易収支(季節調整値)が再び赤字に

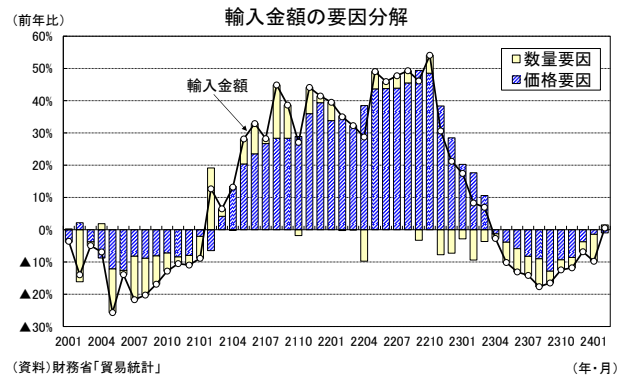
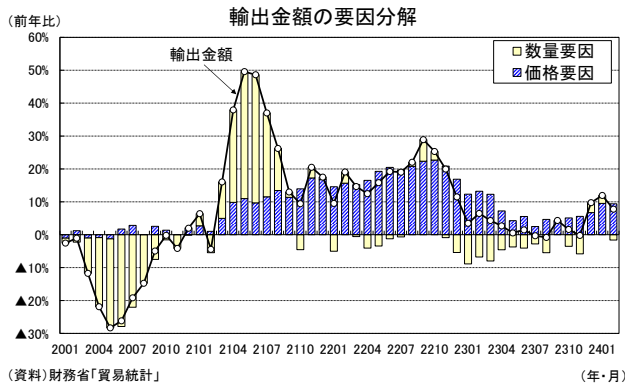
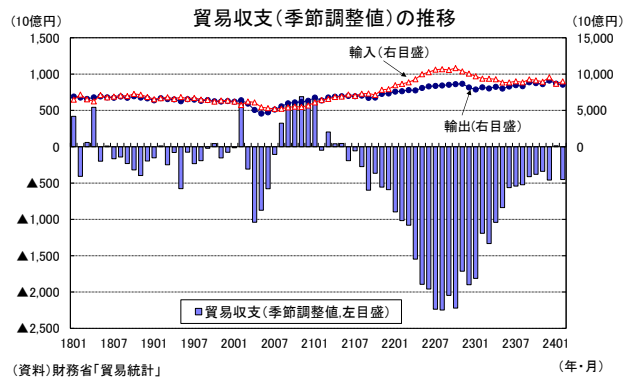
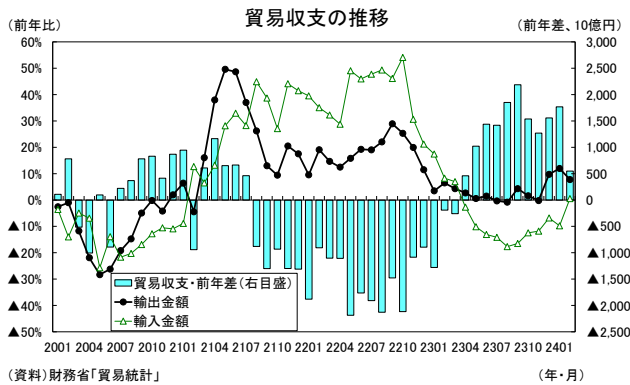
経済研究部 経済調査部長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支(季節調整値)が再び赤字に

財務省が3月21日に公表した貿易統計によると、24年2月の貿易収支は▲3,794億円の赤字となったが、事前の市場予想(QUICK集計:▲8,182億円、当社予想は▲6,344億円)を上回る結果となった。輸出が前年比7.8%(1月:同11.9%)と伸びが鈍化する一方、輸入が前年比0.5%(1月:同▲9.6%)と11ヵ月ぶりに増加に転じたが、輸出の伸びが輸入の伸びを上回ったため、貿易収支は前年に比べ5,496億円の改善となった。

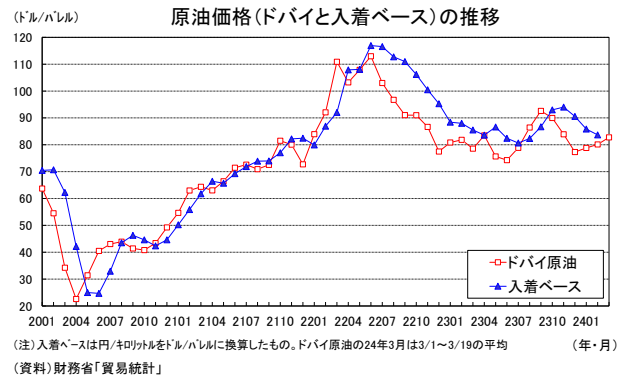
輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲1.5%(1月:同2.3%)、輸出価格が前年比9.5%(1月:同9.4%)、輸入の内訳は、輸入数量が前年比1.5%(1月:同▲8.4%)、輸入価格が前年比▲0.9%(1月:同▲1.5%)であった。



季節調整値の貿易収支は▲4,516億円となり、2年8ヵ月ぶりに黒字(126億円)となった1月か

ら再び赤字に転じた。

24年2月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル=83.7ドル（当研究所による試算値）と、1月の85.9ドルから低下した。足もとの原油価格（ドバイ）は80ドル台半ばまで上昇しており、長期契約で販売する際に指標価格に上乗せされる調整金、船賃、保険料などを含めた通関ベースの原油価格は、24年3月以降は80ドル台後半～90ドル程度で推移することが見込まれる。

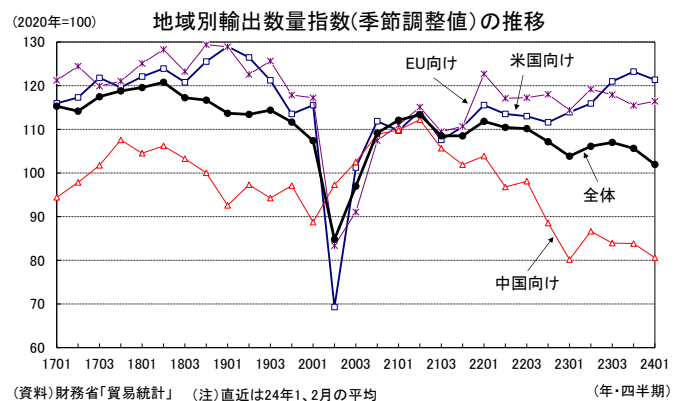


2. 中国向け輸出の低迷が続く

24年2月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比10.9%（1月：同7.1%）、EU向けが前年比3.5%（1月：同▲0.2%）、アジア向けが前年比▲5.9%（1月：同4.3%）、うち中国向けが前年比▲7.1%（1月：同20.4%）となった。

24年2月の地域別輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）でみると、米国向けが前月比2.5%（1月：同▲7.9%）、EU向けが前月比1.5%（1月：同▲2.9%）、アジア向けが前月比▲7.5%（1月：同0.9%）、うち中国向けが前月比▲5.4%（1月：同▲2.8%）、全体では前月比▲3.3%（1月：同▲5.1%）となった。

24年1、2月の平均を23年10-12月期と比較すると、EU向けは0.8%高いが、米国向けが▲1.5%、アジア向けが▲2.4%、中国向けが▲3.9%低くなっている（全体は▲3.5%低い）。2月のアジア向け、中国向け輸出の落ち込みは、中華圏の春節の時期が昨年とずれている（23年は1月下旬、24年は2月中旬）ことから、1月に押し上げられた反動の影響も含まれているが、1、2月を均してみても弱い動きとなっている。



米国向け、EU向けは一定の底堅さを維持しているが、景気減速が続く中国向けの低迷が続くことから、輸出は当面弱めの動きが続くことが予想される。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。